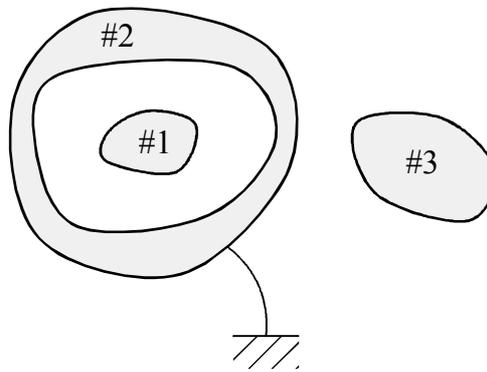


## 電磁気学 I 演習 第 10 回 解答

36. 図に示す 3 つの導体がある。閉殻導体 #2 を接地したとき、内部の導体 #1 の電位を変えても外部の導体 #3 の電荷は変化せず、外部の導体 #3 の電位を変えても内部の導体 #1 の電荷は変化しないこと（静電遮蔽）を容量係数行列を用いて説明せよ。

(ヒント: まず適当な容量係数行列を仮定する。その行列に対して、#1 の電位を  $V_1$  とし、それ以外を  $0V$  にして各導体の電荷を計算する。#1 は #2 に囲まれているという条件から、各導体間の電荷に成り立つ関係を考え、容量係数行列を決定していく。そのとき容量係数行列の対称性を利用する。次に、#2 が接地されているという条件をふまえ、#1 と #3 の導体に相関があるかを判断する。)



【解答】

$$\begin{bmatrix} Q_1 \\ Q_2 \\ Q_3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} C_{11} & C_{12} & C_{13} \\ C_{21} & C_{22} & C_{23} \\ C_{31} & C_{32} & C_{33} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} V_1 \\ V_2 \\ V_3 \end{bmatrix}$$

#1 を  $V_1$  とし、それ以外を  $0V$  にする。#1 には  $Q_1 = C_{11}V_1$  の電荷が生じる。そのとき、#2 は閉じた導体なのでガウスの発散定理から、 $Q_2 = -Q_1$  の電荷がある。#2, #3 はともに電位  $0$  なので間に電界は無く、#3 の電荷は  $Q_3 = 0$  である。

$$\begin{bmatrix} Q_1 \\ Q_2 \\ Q_3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} C_{11} & C_{12} & C_{13} \\ C_{21} & C_{22} & C_{23} \\ C_{31} & C_{32} & C_{33} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} V_1 \\ 0 \\ 0 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} C_{11}V_1 \\ C_{21}V_1 \\ C_{31}V_1 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} Q_1 \\ -Q_1 \\ 0 \end{bmatrix}$$

よって、 $C_{21} = -C_{11}$ ,  $C_{31} = 0$  となる。容量係数行列の対称性から、

$$\begin{bmatrix} Q_1 \\ Q_2 \\ Q_3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} C_{11} & -C_{11} & 0 \\ -C_{11} & C_{22} & C_{23} \\ 0 & C_{32} & C_{33} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} V_1 \\ V_2 \\ V_3 \end{bmatrix}$$

特に、 $V_2 = 0$  なので、

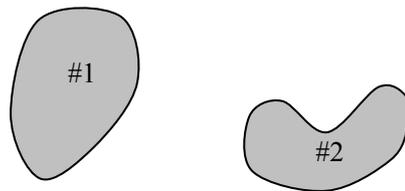
$$\begin{bmatrix} Q_1 \\ Q_2 \\ Q_3 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} C_{11} & -C_{11} & 0 \\ -C_{11} & C_{22} & C_{23} \\ 0 & C_{32} & C_{33} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} V_1 \\ 0 \\ V_3 \end{bmatrix} \rightarrow \begin{cases} Q_1 = C_{11}V_1 \\ Q_2 = -C_{11}V_1 + C_{23}V_3 \\ Q_3 = C_{33}V_3 \end{cases}$$

となり、第 1 式、第 3 式より、

$$\begin{cases} V_1 = Q_1 / C_{11} \\ V_3 = Q_3 / C_{33} \end{cases}$$

#1, #3 の導体の電位は互いに独立となる。■

38-2. 電位係数行列がわかっている 2 つの導体がある。導体 1 を  $Q$  に帯電し、その後細い導線で両導体を繋いだ後に導体 1, 2 が得る電荷  $Q_1, Q_2$  を、電位係数を用いて表しなさい。  
ヒント：両導体を繋ぐと同電位になる。与えた電荷は移動するが電荷量の総和は保存される。



【解答】

$$\begin{bmatrix} V_1 \\ V_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} p_{11} & p_{12} \\ p_{21} & p_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} Q_1 \\ Q_2 \end{bmatrix} \Rightarrow \begin{cases} V_1 = p_{11}Q_1 + p_{12}Q_2 \\ V_2 = p_{21}Q_1 + p_{22}Q_2 \end{cases}$$

導線で両導体を繋いだ後は電位が等しいので、

$$V_1 = V_2$$

$$p_{11}Q_1 + p_{12}Q_2 = p_{21}Q_1 + p_{22}Q_2$$

$$(p_{11} - p_{21})Q_1 = (p_{22} - p_{12})Q_2 \quad (1)$$

また、電荷は保存される（消滅したり生成したりしない）ので、

$$Q_1 + Q_2 = Q \quad (2)$$

式(1),(2)の連立一次方程式を  $Q_1, Q_2$  について解くと、

$$(p_{11} - p_{21})Q_1 = (p_{22} - p_{12})(Q - Q_1)$$

$$(p_{11} + p_{22} - p_{12} - p_{21})Q_1 = (p_{22} - p_{12})Q$$

$$Q_1 = \frac{p_{22} - p_{12}}{p_{11} + p_{22} - p_{12} - p_{21}} Q$$

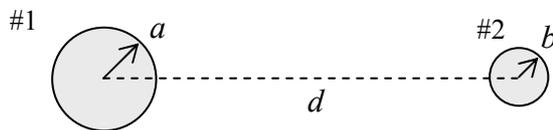
$$Q_2 = Q - Q_1 = \frac{p_{11} - p_{21}}{p_{11} + p_{22} - p_{12} - p_{21}} Q$$

■

38-3. 半径  $a, b$  の 2 つの導体球がある。2 導体間の距離  $d$  は十分離れている ( $d \gg a, b$ ) とする。

(i) 片方の導体だけに電荷を与えたときに、自身ともう一方の導体につくる電位を考え、この導体系の電位係数行列を求めよ。

(ii) 導体#1 を  $Q$  に帯電し、その後細い導線で両導体を繋いだ後に導体#1, #2 が得る電荷の比  $Q_2 / Q_1$  を求めよ(38-2 の結果を利用)。また、そのとき、導体#1 および導体#2 の表面の電界の比  $E_2 / E_1$  を求めよ。



【解答】

(i)

$$\begin{bmatrix} V_1 \\ V_2 \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} p_{11} & p_{12} \\ p_{21} & p_{22} \end{bmatrix} \begin{bmatrix} Q_1 \\ Q_2 \end{bmatrix}$$

$$p_{11} = \left. \frac{V_1}{Q_1} \right|_{Q_2=0} = \frac{1}{4\pi\epsilon_0 a}, \quad p_{22} = \left. \frac{V_2}{Q_2} \right|_{Q_1=0} = \frac{1}{4\pi\epsilon_0 b}$$

$$\begin{aligned}
 p_{12} &= \frac{V_1}{Q_2} \Big|_{Q_1=0} = V_2 - \int_b^{d-a-b} E_r dr = \frac{1}{4\pi\epsilon_0 b} - \int_b^{d-a-b} \frac{1}{4\pi\epsilon_0 r^2} dr = \frac{1}{4\pi\epsilon_0 b} + \left[ \frac{1}{4\pi\epsilon_0 r} \right]_b^{d-a-b} \\
 &= \frac{1}{4\pi\epsilon_0 (d-a-b)} \cong \frac{1}{4\pi\epsilon_0 d}
 \end{aligned}$$

$$p_{21} = p_{12}$$

よって、電位係数行列は

$$\frac{1}{4\pi\epsilon_0} \begin{bmatrix} 1/a & 1/d \\ 1/d & 1/b \end{bmatrix}$$

(ii)

38-2 より、

$$\frac{Q_2}{Q_1} = \frac{p_{11} - p_{21}}{p_{22} - p_{12}} = \frac{1/a - 1/d}{1/b - 1/d} \cong \frac{1/a}{1/b} = \frac{b}{a}$$

$$\frac{E_2}{E_1} = \frac{\frac{Q_2}{4\pi\epsilon_0 b^2}}{\frac{Q_1}{4\pi\epsilon_0 a^2}} = \frac{a^2 Q_2}{b^2 Q_1} \cong \frac{a^2 b}{b^2 a} = \frac{a}{b}$$

蓄積電荷量は半径が大きい方が多いが、表面の電界強度は半径が小さい方が強い。→尖っているところは電界が強い（避雷針の原理）

